

陶芸交流 受入れ先一覧（訪問日時順）

1 いなば西郷工芸の郷（一般社団法人 西郷工芸の郷あまんじゃく）

「西郷工芸の郷」は人間国宝である前田昭博氏が提唱。
地域活性化のために様々な活動を行っていた「いなば西郷むらづくり協議会」が「工芸の郷構想」に賛同、支援活動を始めた。

2016年、いなば西郷むらづくり協議会から一般社団法人「西郷工芸の郷あまんじゃく」として分立。
ジャンルや考え方も異なる様々な工芸作家が集まり、切磋琢磨する。
これからの時代に求められる新たな工芸・文化を見い出す場。

2 三々窯（小淵祥子氏、廣瀬泰樹氏）

2020年に鳥取県に移住し、三々窯（さんさんがま）開窯。

小淵祥子氏は絵付けを中心とした作品を制作。

廣瀬泰樹氏は原土を採取して成形し、主に薪窯を使って焼成した作品を制作。

3 鳥取因幡焼（三木健太郎氏）

京都窯元「中天陶窯」や因州・中井窯で従事。

2013年に故郷の鳥取市にて陶芸家として独立し、「鳥取 因幡焼」を開窯。

現在は、オーダーメイドでの制作や陶芸教室を中心に活動中。

4 陶工房 彩白（岩見ひとみ氏）

佐賀県立窯業高等学校で絵付けと成型を学ぶ。

白い生地に彩(いろどり)を添えるうつわを、と工房名を「彩白」(いろは)と命名。

型打ち技法、イッチン技法等を用いて食器や花瓶等を作陶。

5 牛ノ戸焼（小林孝男氏、小林遼司氏）

江戸時代の後期・天保8年（1837年）、現在の島根県江津市から来た小林梅五郎氏によって開窯。

初代から変わらず地元産の粗土を水籤作業を行って陶土として用いている。

地元産の粘土と灰を扱うことで作品に深みが出るように工夫を凝らす。

6 やなせ窯（前田昭博氏）

大学在学中に白磁に出会い、造形性の強い作風の伝統的な作品を発表。

白磁の色が透明感を増し、柔らかい丸みを持った地肌に面取りを施した作品を制作。

光と影が美しく、現代感覚があふれており、国内外の展示会で数多く受賞。

重要無形文化財「白磁」保持者（人間国宝）。

7 ガラス工房 ukiroosh.（竹中悠記氏、矢野志郎氏）

竹中悠記氏と矢野志郎氏によるガラス工房。

竹中悠記氏はパート・ド・ヴェール技法にて、矢野志郎氏は板ガラス積層技法にて制作を行う。

8 フクラクラフト（岡田純平氏）

銀粘土（アートクレイシルバー）と七宝を主な素材としてアクセサリー等の制作を行う。

デザイン・造形から仕上げまで一人で手掛ける。